



Sony Design MAKING MODERN

2015.11.27 Fri – 11.29 Sun

京都造形芸術大学 瓜生山キャンパス「瓜生館」 入場無料

トークカンファレンス: 11.28 Sat

「人のやらないことをやる」ソニーのチャレンジ精神を体現するソニーデザインとは何か？

ソニーが新たな価値をお客様へ届けるとき、新規ビジネスを立ち上げるとき、

それらをブランドコミュニケーションとして伝えるとき、

デザイナー達は何を考え実践し、イノベーションを進めているのか。

2015年のソニーデザインを代表する近作に加え、

春の銀座展で好評だった歴代モデルのデザインを、3日間限定で一堂に展示します。

さらに、ソニーデザインの今を知り、明日のデザインを考えるトークカンファレンスを期間中に開催。

ソニーデザインのメンバーとともに、秋の京都でデザインイノベーションについて一緒に考えましょう。

トークカンファレンス プログラム 11.28 Sat 15:00-17:00

参加無料: 事前登録制

ご参加をご希望のお客様はSony Designのウェブサイトから事前登録をお願いいたします(無料)

<http://sony.co.jp/design>

1. 「ソニーデザインの役割と深化」

長谷川 豊 (クリエイティブセンター長)



ソニーがチャレンジし続けるために、デザインが持つ役割とは何か。54年の歴史あるソニーのデザイン部門を率いるソニーデザインのトップ長谷川が、進化し続けるソニーデザインの実現に向けて何を考え何を実践しているのか、伝統を重んじながら常に進化・挑戦してきた京都という歴史ある街にインスパイアされながら語ります。

2. 「今に引き継がれるロボットデザイン」

沢井 邦仁 (デザイナー)



知性をまとった球体。話す、踊る、聴くアクティブスピーカー「BSP-60」。そこにはAIBO、QRIOといったロボットをデザインしてきた知見と、カタチや振る舞いに込めた想いがあります。ソニー製品のデザインにおいて何を進化させ、何を守ってきたのか、そしてそれはなぜなのかなど、ロボットとデザインについて沢井が語ります。

3. 「アートディレクションから生まれたCMFの現場」

詫摩 智朗 (チーフアートディレクター)



高音質・高品質をもっとアタリマエに。ソニーの最新のヘッドホンh.earで目指したのは、定番スタイルとなるデザイン。造形のデザインだけではない世界観、鍵となるCMF(カラー/マテリアル/フィニッシュ)はどう生まれたのか。広告コミュニケーションにいたるまで、世の中に新しい価値を届けるために実践したことは何か、詫摩が語ります。

4. 「コンテキストを理解し、新たなコンテキスト創造する」

田幸 宏崇 (チーフアートディレクター)



ビジネスの在り方に至るまでデザインという考え方が多岐に活用される時代において、単に美しい造形を生み出すということだけでなく、そこにあるコンテキストを拡張するデザインであってこそクリエイティブであり、ソニーデザインらしさである。空間そのものを活用して新しい体験を創出するコンセプト「Life Space UX」において住空間というコンテキストをより豊かにするデザインとは何か、田幸が語ります。

5. 「なぜソニーはオリジナルフォントを創ったのか」

福原 寛重 (チーフアートディレクター)



90を超える言語に対応するソニーのコーポレートタイプフェイスSST®。それが生まれた背景を知るには、ソニーのコミュニケーションデザインの歴史を紐解く必要があります。そこから垣間見える SST 導入以降の新しいコミュニケーションはどう変わっていくのか、何が守られ進化していくのか、福原が語ります。

6. 「ビジネスインキュベーションでのデザインの役割」

石井 大輔 (チーフアートディレクター)



企業が変わろうとするとき、それは新たなビジネスを創出することで体現する。ソニーの新規事業創出プログラム(Seed Acceleration Program, SAP)において、SAPから生まれるアイデアを社内起業家達と一緒にカタチにしてきた経験をもとに、企業におけるデザイナーの新しい役割について石井が語ります。

Sony Design MAKING MODERN

2015.11.27 Fri - 11.29 Sun

展示期間: 11.27 Fri-11.29 Sun 10:00-17:00

トークカンファレンス: 11.28 Sat 15:00-17:00(事前登録制)

会場: 京都造形芸術大学 瓜生山キャンパス「瓜生館」京都市左京区北白川瓜生山2-116

主催: ソニー株式会社

プロデュース: ソニー株式会社 クリエイティブセンター 市川 和男(シニアプロデューサー)

SST is a trademark of Monotype GmbH registered in the U.S. Patent and Trademark Office and may be registered in certain other jurisdictions.